

## 平成 23 年度採択 タイプ A-Ⅱ ② 大阪大学（広島大学、長崎大学、名桜大学）

「『アジア平和＝人間の安全保障大学連合』を通じた次世代高品位政策リーダーの育成」

### ●相手大学・機関

デ・ラ・サール大学（フィリピン）、パヤップ大学（タイ）、シアー・クアラ大学（インドネシア）、国立東ティモール大学（東ティモール）、ナンヤン工科大学（シンガポール）、カンボジア・パンナサストラ大学（カンボジア）、チェンマイ大学（タイ）、国連平和大学（コスタリカ）

### ●主な活動内容（概要）

平成 23 年度に選定された「『アジア平和＝人間の安全保障大学連合』を通じた次世代高品位政策リーダーの育成」は、次世代の日本と ASEAN を担う高品位な政策リーダーを育成するために、ともに過去の戦争の歴史から教訓を学び、文化や価値の多様性を尊重し、同時代の問題にも共感をもって協力して解決する精神と方法を獲得し、未来志向の共同体意識を育む学びの場を創出する取組である。そのために、「平和＝人間の安全保障」の視点を共通基盤に日本国内（大阪・広島・長崎・沖縄）と ASEAN 域内外の諸大学が連携し、国連平和大学とも戦略的提携の下、ネットワーク型の大学連合を形成し、高品質のカリキュラム編成・単位互換・学位授与のモジュールを開発して学生のダイナミックな相互留学とフィールド学習等を実現する。

本選定取組は、5 年の補助期間に日本・ASEAN で合計 180 名の政策リーダーとなるべき若手人材を輩出し、補助期間終了後も自律的な「大学連合」として研究・教育活動の継続・発展をめざす。プログラムは「平和＝人間の安全保障」利益の増進という全体テーマの下、国連平和大学と提携したカリキュラム開発を進めつつ、連携大学の実績をふまえて「平和構築」「経済協力」「健康開発」「多文化理解」の 4 つを重点分野とし、①メイン・プログラム（単位互換を伴う 1 セメスター交換型）、②サブ・プログラム（フィールドワーク、インターンシップ等を含む短期集中ワークショップ型）、及び③前 2 者の連結型プログラムを重層的に実施していく。コースワークは、大阪大学独自の「大学院等高度副プログラム」（部局横断の副専攻型プログラム）制度を用いた新コースを設定し、これを上記①～③の留学プログラムとも結び、質保証を伴う単位互換や留学生の参加可能な枠組みにする。

## ●プログラムの現状・課題、成功事例

(単位互換、危機管理、寮・奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等)

### 現状・課題

派遣の課題として以下の2点が挙げられる。

①ハウジング(宿舍・アパート)の問題が一番大きい。学生寮(大学及び民間)が手頃な価格で整っているタイのチェンマイ大学を除いて、すべての地域で宿の確保に大きな困難を伴っている。特にシンガポールではシンガポールの賃貸契約に関する法律等の問題から手配が困難であり、家賃補助額を超える分の学生の自己負担額が大きい。また、フィリピンの場合は賃貸契約に係るトラブルが絶えず、解決方法を模索中である。

②次に、派遣学生のメンタルなサポートが課題である。

受入れの課題としては、東南アジアには日本で学びたい学生がたくさんおり、本プログラムにおいても、東南アジア側のいくつかの大学では5倍から10倍の競争率となっている。したがって毎年優秀な学生が派遣されてくる。一方、日本側では、東南アジアを専門としている学生の数がまだ少なく、サブ・プログラムは人気があるものの、メイン・プログラムで東南アジアへ留学を希望する学生の獲得にいずれの大学も苦慮しているところである。留学先としての東南アジアを魅力あるものにするためには、東南アジア側の受入れ体制・支援体制を強化する必要があると考える。

### 成功事例

本事業の成果として、日本への留学希望者が増えている。例えば、平成26年度はデ・ラ・サール大学からの本プログラム参加者が文科省奨学生として大阪大学の研究生になった(博士後期課程入学の見込み)。また、カンボジア、インドネシアからの本プログラム参加者が日本への再留学を考えている。

## ●学生交流数

	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
受入	10	10	21	22	23	24	23	24
派遣	10	16	21	29	22	23	22	25

(※) 予定含む